

春季体育  
文化大会

# 土2と電1が総合優勝



## 工高タイムス

北海道旭川工業  
高等学校新聞局  
〒078-8804  
北海道旭川市緑が丘  
東4条1丁目1-1  
発行人(局長)  
稲留 駿斗  
(電気科2年)

### 練習の成果が出た

### 観戦者と共に盛り上がる

春季体育文化大会が3月19日と23日に行なわれた。競技内容はバドミントン、バレーボール、卓球、大富豪、UNO、大乱闘スマッシュブラザーズ(スマブラ)の6種目で学年ごとに学科で競った。総合優勝は2年生が土木科、1年生は電気科だった。



卓球で優勝した建築科2年チームの水口玲央君

バレーボールで優勝した今西孝太君(電1)は「サーブとチーム連携の練習の成果がでて良かった。柳原峻太郎君と若松祐太君のジャンプブロウターサーブと守備が勝因。反省点は限られた人しか打てない点。来年に向けてサーブをさらに強くなり、皆がスパイクを打てるようにしたりしたい」と話した。

卓球で優勝した野内海成君(建2)は「練習の成果が出て良かった。昨年の反省を生かして戦略的にメンバーを割り振り優勝できた。中学校のときの卓球仲間や盛永優仁君と練習を重ね、また地元の少年団に参加して練習回数を増やした。試合中はサーブに回転をかけて、返球をペアの盛永君がスマッシュを打って試合の流れを作れたことが勝因。

1年土木科と電子機械科の大富豪



チームの作戦がうまくいった。反省点は練習量が足りず、弱点を改善するまでに至らなかった。

### ★旭工 ライフ

### 後輩の育成に力を

放送局長  
川上大地君(情2)



趣味は音楽鑑賞

放送局は現在、NHK杯全国高校放送コンテスト北海道地区大会上川地区大会の研究発表部門に出場するための題材を決め、撮影技法について研究している。2年生4人、1年生8人の計12人で活動中だ。

動や学校紹介映像の制作、大会に向けての準備などを行っている。他に吹奏楽部の定期演奏会や旭川まちなか学生映画祭、全校応援の撮影など、校外での活動も行なっている。

3年生が卒業してからも3週間経った。学校生活や部活動で先輩と関わる機会が多くあったが、新聞局3人の先輩との思い出を語ろうと思おう▼一人目は村岡良祐君(化3)。局長として毎日の部活動が楽しくなるように明るく振る舞っていた。そのおかげで私は新聞局の活動をいつも楽しく思えた。全道大会の分科会が一緒だったときはいつもとは違うまじめな一面を見ることができた。困っていたときに優しく教えてもらったことが思い出だ。二人目は竹内佑君(土3)。アポイントメントの取り方や取材の仕方、記事の書き方など全て教えてもらった。竹内君の面倒見の良さを見習いたい。三人目は高橋健慎君(化3)。新聞局に誘ってくれたのが高橋君だった。取材がきっかけで部室を見学した。見出し作りをした。先輩方から新聞局の良さなどを聞いたりして入ることになった。活動終わりに休日にバスケットボールをしてください。飯に誘ってくれたりなど友達のように関わってもらった。この1年間で文章力やコミュニケーション能力が向上したことも感謝している▼この3人の先輩方を見習って、先輩が入ってきたときには村岡君みたいに優しく関わり、活動を楽しみと思ってもらえるように明るく振る舞いたい。先輩が困っているのを見たら竹内君みたいに分かりやすく教えたい。そして、高橋君みたいに友達のように関わる先輩になりたい。(電1小西)



### 大会結果

- 総合
  - 2年①土木②情報③工化・機械
  - 1年①電気②建築③機械
- バドミントン
  - 2年①工化②建築③機械
  - 1年①工化②建築③電気・情報・機械
- バレーボール
  - 2年①工化②土木③情報・機械
  - 1年①電気②機械③建築
- 卓球
  - 2年①建築・土木・情報
  - 1年①建築②工化・情報・機械
- 大富豪
  - 2年①土木②工化③情報
  - 1年①機械②土木・情報
- UNO
  - 2年①機械②建築・土木・電気
  - 1年①電気②情報・建築
- スマブラ
  - 2年①情報②電気・機械
  - 1年①土木・電気③工化

### 課題を次に生かす

澤田宙陽 会長

試合進行は体育委員や行事委員、各部活動の部員、先生方の協力でスムーズに進めることができた。

聞こえ、競技に対して真剣に臨んでくれていると感じた。反省点としては応援する生徒が多かったため、応援する場所を設ければ良かった。また、集計作業のときに順位のミスが見つかり、賞状の作成が遅くなった。これらの課題を解決し、工高祭や旭工オリピックに生かしてより良いものになりたい。

美術部

道展U21

古侯君と大田君が奨励賞

高文連では入賞をねらう

美術部の古侯君(建2)と大田泰士君(電2)が第16回道展U21で奨励賞を受賞した。道展U21には874人の応募があり、入賞は286人だった。美術部からは他に4人が入選している。



古侯君(建2)の油絵「シンク」



大田泰士君(電2)の日本画「キメ顔」

油絵「シンク」で奨励賞を受賞した古侯君は「この絵は競馬の騎手の視線で、最後の直線で後方から追い込んで来た馬に、自分の馬が抜き去られた『飲み込まれた』様子を描いた。周りの馬が加速していく感じを筆を流すことで表現でき、味を出せた。制作期間は1日で一気に描き上げた。次の大会は8月の高文連になるので、時間をかけて計画的に制作し、入賞をねらいたい」と話した。

美術部顧問の福澤等先生は「古侯君の『シンク』は細かいところにこだわらずに筆の勢いで描いたところが評価された。大田君の『キメ顔』は日本画で絵具を何度も重ねて塗らなければならぬので制作に日数がかかる。体調を崩して休んだときもあったが、諦めずに取り組んだことが評価された」と語った。

新聞オンライン交流会

局員の勧誘法を学ぶ

新聞局は3月12日にZoomで行なわれた第1回北海道新聞オンライン交流会に3人が参加した。テーマは「新入部局員の勧誘について」で、交流会を主催した市立札幌開

成中等教育学校を1日に卒業した宮崎ほのかさんが「どうやって局員を増やしたか」と題して講演した。その後、6グループに分かれて「どんなことを記事にしているか」「全道の学校で統一した新聞を作るにはどんな記事が良いか」について意見交流した。旭工新聞局でも3年生卒業

後は局員が3人となり、局員不足の状態だ。参加した副局長の小西輝君(電1)は「宮崎さんが話した『新聞局の活動を見えるようにする』、『行事で写真撮影のボランティアをする』など、局員勧誘の参考になることがあった。4月からこのアドバイスを生かしていきたい」と話した。

土木1年 コンクリート検定に37人合格 基礎的な知識を体系的に

土木科1年生40人は12月3日に応用力学実習室で行なわれたコンクリート製品検定を受験し37人が合格した。検定ではコンクリート製品やコンクリートの性質、材料について出題される。

HR委員長の辻陽向君は

「コンクリート製品は身近にあり、コンクリートの材料や性質などを勉強する中で理解が深まった。基礎的な知識を体系的に学ぶことができて良かった。普段はテキストを使って、その内容を先生が解説をしたり過去問題を解いたりして勉強した。コンクリートの専門用語を覚えるのが難しかった。受験中はして難しそうだと感じたが、勉強した内容を思い出しながら解くことができた。将来、土木関係の企業に就職したいと思っているので合格できて良かった。次は基礎製図検定があるので合格目指し勉強したい」と語った。

「コンクリート製品は身近にあり、コンクリートの材料や性質などを勉強する中で理解が深まった。基礎的な知識を体系的に学ぶことができて良かった。普段はテキストを使って、その内容を先生が解説をしたり過去問題を解いたりして勉強した。コンクリートの専門用語を覚えるのが難しかった。受験中はして難しそうだと感じたが、勉強した内容を思い出しながら解くことができた。将来、土木関係の企業に就職したいと思っているので合格できて良かった。次は基礎製図検定があるので合格目指し勉強したい」と語った。

美術部

雪像甲子園で3チーム入賞

来年は優勝を目指す

第67回旭川冬まつりが2月4〜11日に石狩川旭橋河畔の会場で行なわれ、高校生雪像甲子園に美術部から3チームが出場した。1月31日に3人1組で一つの雪像作品を9時

半〜17時までの間に制作した。結果は鈴木結人君(情1)と金井美咲弥さん(情1)、中嶋未留人さん(情1)が制作した「ネコサメ」が準優勝。古侯君(建2)、酒井柊也

君(建2)、架田祥喜君(情2)が制作した「フォーエバーヤング」が旭川商工会議所会頭賞を受賞。小諸颯音君(化1)、谷藍衣さん(化2)、大田泰士君(電2)が制作した「鮭の逆上」がマクドナルド賞を受賞した。

鈴木君は「猫とサメが合体した雪像を作った。規定の大きさにしっかりと合うように意識して作業した。サメのヒレや歯が何層にも重なって見えるようにしたり、ふっくらとした形や前足の肉球の造形に力を入れたりした。どれくらいのか分からなかった。初めての作品が準優勝でうれしかったが、自分たちの作品が一番かわいいと思っていたので少し悔しかった。次回は今回の

経験を生かして優勝を目指したい」と語った。古侯君は「昨年のアメリカダート最高峰BCクラシックで勝ったフォーエバーヤングという馬を制作した。力強さと繊細さを意識した。足の間に空間を設け足を互い違いにして、迫力を出した。足の間に削りすぎて途中崩壊しかけて修正するのに苦労した。改善点は土台をもっと余裕を持って作成したかった。賞を取ることを目標に頑張ったので旭川商工会議所会頭賞を受賞できた

と話した。小諸君は「鮭がクマを襲う迫力のある作品を制作した。クマの輪郭や川の波の形を忠実に再現することを意識した。正面だけではなく横や後ろから見ても一つの作品として見られるように工夫した。削る作業がとて大変だった。雪が降ったら細かく削ったところが遠くから見ると、くっきりと見えなかったので次回作るときは遠くから見てもリアルに見えるようにしたい。チームで優勝を目指していたが、結果がマクドナルド賞で悔しかった。景品が一人3000円分の商品券と大きなハンバーガーのぬいぐるみで豪華だったのでうれしかった」と話した。



準優勝したチーム超濃縮ビーバーの「ネコサメ」



旭川商工会議所会頭賞の「フォーエバーヤング」



マクドナルド賞の「鮭の逆上」

て良かった」

と話した。

37人が合格した土木科1年生

ウェブ掲載用紙面は、画像の一部を加工しています。